

企業短期経済観測調査（道北\*地域分）  
（調査対象企業：道北\*48社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
回答社数構成比 %ポイント  
（ ）内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2014/9月	12月	2015/3月	6月	9月	12月	2016/3月までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	7	4	▲4	13	8	(▲2)	4
うち製造業	10	18	27	27	9	(0)	0
非製造業	6	0	▲14	8	8	(▲3)	5
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	2	▲13	▲13	▲9	▲9	(▲19)	▲15
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	6	0	▲6	▲3	5	(—)	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲12	0	▲5	▲5	2	(▲2)	▲7
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲21	▲23	▲15	▲13	▲15	(▲25)	▲22
資金繰り < 楽である - 苦しい >	0	0	▲2	6	▲10	(—)	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	20	25	24	25	15	(—)	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲10	▲11	▲11	▲7	▲7	(2)	▲5
販売価格 < 上昇 - 下落 >	7	11	9	0	2	(2)	▲6
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	42	40	40	36	27	(38)	38

（注）2014年9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014年12月以降は見直し後の新ベース。

「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2016/3月までの予測」は調査対象外。

全産業、前年度比%、  
< >内は前回調査比修正率%

（事業計画）

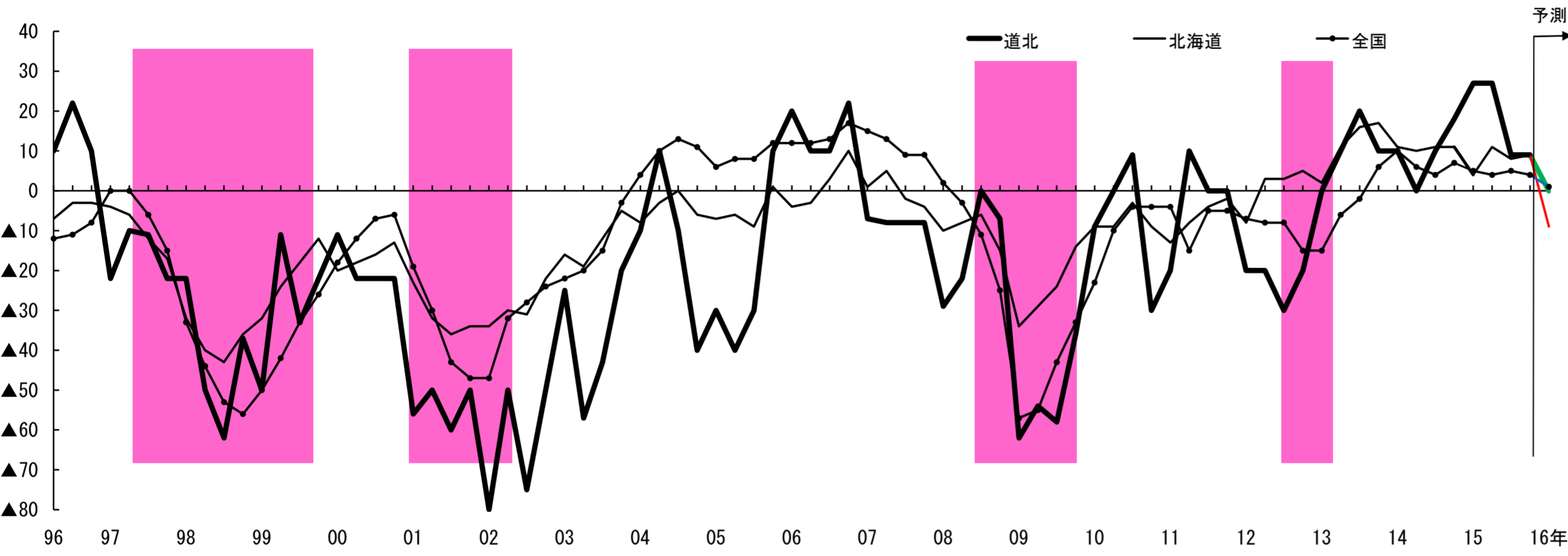
	2014年度実績	2015年度計画			
		上期		下期	
売上高	-4.3	+0.3 <-0.8>	+3.9 <-0.9>	-2.8 <-0.8>	
経常利益	-47.4	+37.1 <+24.1>	+29.2 <3.9倍>	+42.1 <-10.6>	
当期純利益	-57.0	+55.5 <+6.2>	+0.8 <黒字転化>	2.1倍 <-31.4>	
設備投資額	+97.6	-67.8 <+38.7>	-58.0 <+44.5>	-72.3 <+35.0>	

2015年12月短観・調査結果

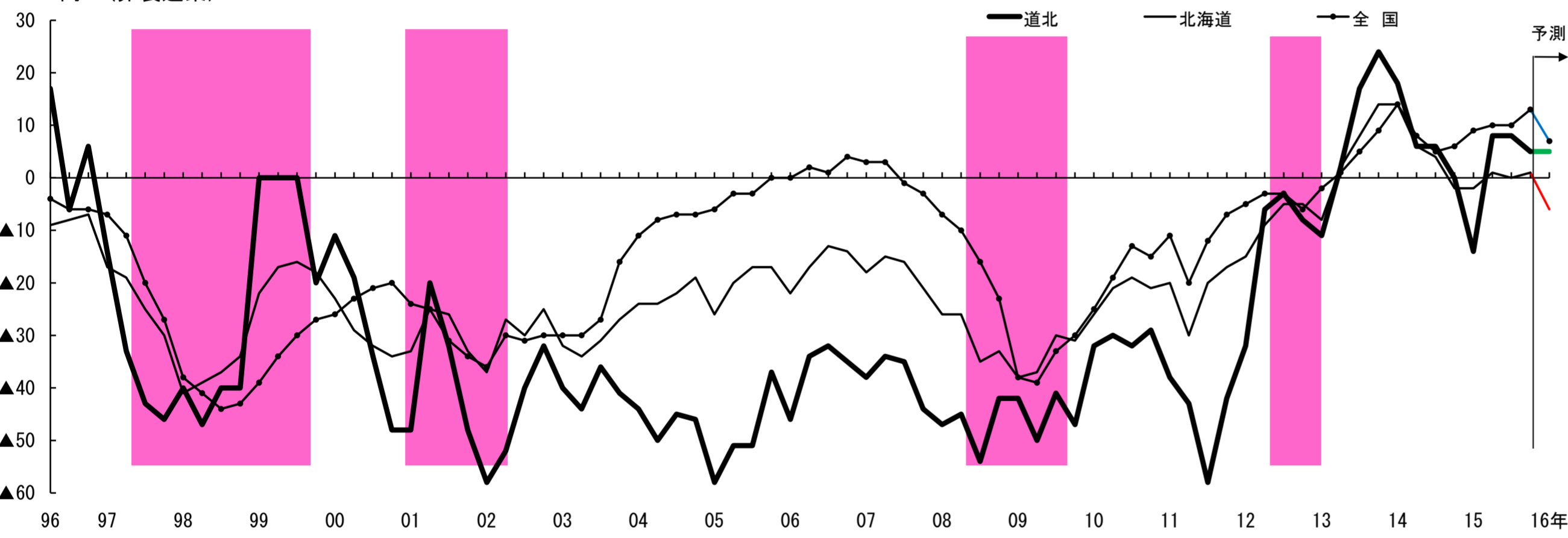
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)  
 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
 2014/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014/12月以降は見直し後の新ベース。  
 シャドーは景気後退期（内閣府調べ）

## 道北地域の企業短期経済観測調査結果（2015年12月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 48 社（製造業 11 社、非製造業 37 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 48 社）
- 回答期間：2015 年 11 月 11 日～12 月 11 日

### 1. 業況判断 DI

- 12 月の業況判断 DI（全産業ベース）は+6 と、前回 9 月調査に比べて若干悪化した（前回+8、前回比▲2 ポイント）。
  - 製造業の業況判断 DI は+9 と、前回調査比不変。
  - 非製造業の業況判断 DI は+5 と、前回調査比小幅悪化（前回+8、前回比▲3 ポイント）。
- 先行きの業況判断 DI（全産業ベース・2016 年 3 月までの予測）は、若干悪化するものの、+4 とプラスを維持する予測。
  - 製造業の業況判断 DI は、建設資材関連を中心に悪化し、ゼロとなる見込み（+9⇒0）。
  - 非製造業の業況判断 DI は、建設が公共工事予算の減少から悪化するものの、卸売や飲食など改善する業種もあることから、全体では不変の見込み（+5⇒+5）。

### 2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI<需要超—供給超>」（▲9⇒▲15）は、前回比供給超幅が拡大。先行きは不変の予測。「製商品在庫水準判断 DI<過大—不足>」（+5⇒±0）は、前回比過大超幅が縮小。「生産・営業用設備判断 DI<過剰—不足>」（+2⇒±0）は、ほぼ横這い。
- 「雇用人員判断 DI<過剰—不足>」（▲15⇒▲9）は、前回比不足幅が縮小したが、引続き不足と判断する企業が多く、先行きも、建設やサービスを中心に不足幅が再び拡大する見通し（同▲22）。
- 「仕入価格判断 DI<上昇—下落>」（+27⇒+26）は、ほぼ横這いだったが、先行きに関しては、上昇を見込む先が多い（同+38）。「販売価格判断 DI<上

昇一下落>」(+2⇒▲5)は、建設、不動産などを中心に低下したことから、小幅の下落超となった。先行きについては、ほぼ横ばいの見込み(同▲6)。

- この間、企業を取り巻く金融環境についてみると、借入金利水準の低下が続いている中で、金融機関の貸出態度も引続き緩い状況が続いている(「借入金利水準判断 DI<上昇-低下>」: ▲7⇒▲7、「金融機関の貸出態度判断 DI<緩い-厳しい>」: +15⇒+26)。こうした中で、資金繰りに関しては、苦しいと答える企業が減少した(「資金繰り判断 DI<楽である-苦しい>」: ▲10⇒▲2)。

### 3. 事業計画

- 2015年度の事業計画は、増収・増益の見通しとなっている。売上高は前年度比+0.3%と小幅の増加見通しに止まっているが、経常利益に関しては、建設関連や卸売、サービス業を中心に、全体で前年度比+37.1%、当期純利益では同+55.5%の増益を見込んでいる。また、これらは前回9月調査比でも改善している(前回:経常利益前年比+10.5%、当期純利益同+35.7%)。一方、設備投資額に関しては、前回調査比で見れば上積みになっているものの、前年度にみられた大口の工場・施設等の新增設が今年度は少ないことから、前年度比では▲67.8%と大幅に減少する計画となっている。

以 上